

令和2年3月

第133号

# 道北支部ニュース

発行人 前田 健太郎

編集人 近藤 伸英

## Index

- ✓ Academic PT
- ✓ 道北支部掲示板

## Academic PT

今回のAcademic PTは病院（医療分野）から地方自治体（福祉・行政分野）に移り、新たな分野で挑戦している田中大地先生に書いていただきました。

理学療法士が働くフィールドも最近では広がっています。

若い会員の皆様に「地方行政で理学療法士が働くということ」について少しでも知っていただければと思います。



町広報で運動機会の定着に向けた呼びかけに使用している写真

はじめに、寄稿の機会を頂いた関係各位に感謝申し上げます。  
拙い話ではありますが、道北支部の皆様にとって少しでも参考になれば幸いです。

### ～PTになってから今まで～

富良野協会病院に就職し、整形・中枢・内部・小児・スポーツ・訪問領域など様々な分野や介入期を経験しました。入社当初は先輩方の指導の下、年6回の頻度で症例発表を行いました。当時は休日が研修会、平日は夜まで症例まとめという生活でしたが、目の前の患者さんを何とかしたいという一心で没頭していました。発表は10年経っても道学会、全国学会とステージを変え続けていき、内容も症例から研究まで興味関心の変化とともに形を変えました。とても大変でしたが得られるものが多く人脈も広がり、症例発表を通した一連の経験は理学療法士としての財産になっています。

いつからかGeneralistを目指すようになり、運動器認定理学療法士、3学会合同呼吸療法認定士、日本糖尿病療養指導士を取得しました。また、近年は「リハビリテーションとは何か」「豊かで幸せな生活とは何か」と深く考えるようになりました。

それは医療だけでは解決せず、生活する社会の仕組みも重要だと気づきました。日本社会の仕組みづくりをしている行政の中に入り、リハビリテーション専門職の視点でより良い地域づくりをしたいと思い、昨年転職しました。

### ～現在の仕事～

一日何単位というような業務形態ではなく、町が行う介護・福祉事業の計画、運営、見直しを行っています。その中には介護予防事業、地域リハ活動支援事業、病院や特養での相談や職員向け研修などこれまでの経験を活かせる分野もあれば、介護認定調査、地域ケア会議運営、ケアプランの適正化点検、福祉関係行事運営、災害対策、各種事務など初めて経験することも多くあります。理学療法士、地域包括支援センター、福祉課職員として様々な立場で視点を変えながら仕事をしています。今までは医療や介護中心の考えでしたが、地域づくりではより広い視野を持つことが重要だと改めて感じるようになりました。

# 第71回 北海道理学療法士学会大会

# 志

大会長 千葉 恒

(介護老人保健施設ふらの)

主催

公益社団法人日本理学療法士協会北海道ブロック  
公益社団法人北海道理学療法士会

日時: 令和2年7月18・19日

場所: 旭川市民文化会館

基調講演 加藤 浩 氏  
(九州看護福祉大学大学院 教授)

テーマ  
「臨床理学療法士に求められる研究と科学」

特別講演 阿部 浩明 氏  
(広南病院 リハビリテーション科 総括主任)

テーマ  
「理学療法士としての志  
～自分の考えをデータを示して発言できる臨床家を志して～」

<次号予定>

- ✓ AcademicPT
- ✓ 道北支部掲示板

～編集後記～

世界中、話題はコロナでもちきりです。士会の事業も3月からすべて中止となり、5月以来もまだ不透明な状況が続いています。毎日、「マスクがない」、「新たな感染者がみられた」、「オリンピックはどうするか」などコロナ関連のニュースばかりでなにか明るい話題が欲しいところです。現在、北海道は爆発的な感染はなく、ようやく緊急事態宣言が取り消されました。個人的には感染に十分気をつけながら地域の消費拡大に貢献したいと考えております。会員の皆様も自分が媒介者とならないように気をつけつつ、北海道の景気回復に貢献していきましょう!

問い合わせ先 北都保健福祉専門学校 近藤伸英  
E-mail:kondoun@hokuho.ac.jp

それらの中でも転職して特に力を入れたかった介護予防事業には積極的に取り組んでいます。町の介護予防事業として新たに「リハビリ体操指導士養成講座」を開始しました。30時間の講習を受け、解剖学や運動学などの知識を習得し、正しい体操指導方法を学んだ住民が町内各地で体操指導を実施する事業となっており、住民が住民を支える仕組みとなります。

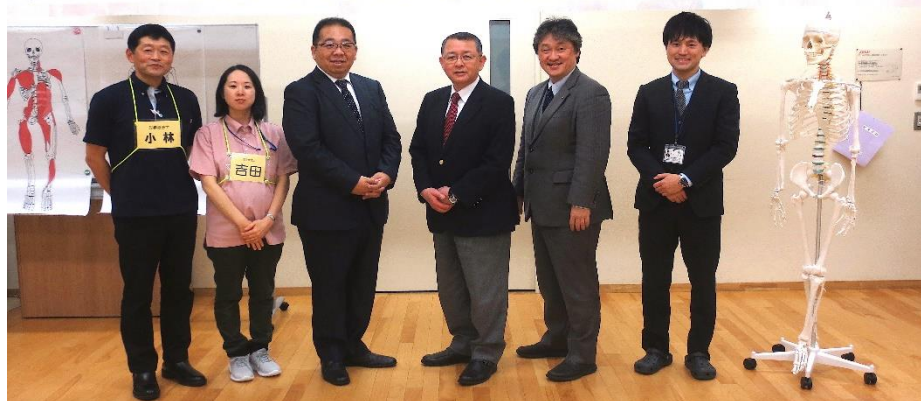
開始するにあたり、北海道の事業指定を受けて基金を活用し、harpにご支援を頂き、森山メモリアル病院にご協力頂いて実施することができました。なかふらのリハビリ体操指導士が31名誕生しました。

## ～今後の展望～

現在は保健師や管理栄養士とともにフレイルやサルコペニアの早期発見とそれに適した介入ができる仕組みづくりを協議しています。これらの仕組みが整い上手く機能することで病気や怪我の発症予防となり、健康面のみならず医療・介護費の抑制へと繋がり、国が掲げる高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に発展させたいと考えています。

新たな分野への挑戦はとても不安でしたし、初めてのことはばかりで大変ですが、病院とは違ったやりがいを感じます。医療や介護分野にPTが必要なように、地域づくり分野にもその視点は重要であり、役割の違いだと考えています。少しでも自治体所属のPTが必要とされるように精進して参ります。

## なかふらのリハビリ体操指導士養成講座



日本理学療法士協会齊藤副会長・田中理事、北海道理学療法士会太田会長にご来町頂いた時の写真